

平成 28 年 4 月 5 日

可児市議会議長 川合 敏己 様

議会改革特別委員会視察実施報告書

- 日 時 : 平成 28 年 3 月 30 日 (木)
- 視察地 : 愛知県新城市
- 内 容 : 若者議会条例の取り組みについて
- 目 的 : 今後検討を進める若者との条例づくりにあたり、新城市若者議会条例に基づき、若者の力を活かすまちづくり政策について調査を行う
- 出席者 : 委員長 川上文浩
副委員長 山根一男
委員 山田喜弘、天羽良明、勝野正規、渡辺仁美、高木将延、
田原理香、大平伸二
高校生 田口裕斗、杉田和樹、亀井雪帆
事務局 松倉良典、渡邊ちえ

【視察地概要】

平成 17 年 10 月に新城市、鳳来町、作手村の合併によって誕生。愛知県の東部、東三河の中央に位置する。平成 28 年 2 月に新東名高速道路新城 I.C. が開通。棚田百選にも選ばれた四谷の千枚田をはじめ、鳳来寺、長篠設楽原の古戦場、湯谷温泉、百間滝などの観光スポットが有名である。

- ・面積 499.23 km²
- ・人口 48,452 人
- ・世帯数 17,057 世帯

【若者議会の取り組み】

- H25.11 市長の第 3 期マニフェスト 「若者が活躍するまちづくり」
- H26. 4 若者政策係 創設
- H26. 5 若者政策ワーキング (若者議会の準備段階)
男 13 名 女 6 名の 19 名 (内 10 名が一般公募)
ワークショップ 21 回

バスルート市内視察 3ルート

市民まちづくり集会 (H26. 10. 19)での意見収集

ニューキャッスルアライアンスに出席、英国ユース議会を学ぶ

H26. 11 若者政策ワーキング大臣

統括大臣、若者議会大臣、若者総合政策大臣、成人式大臣、連携大臣、キックオフシンポジウム大臣の6大臣を設け、目標を持ったチーム分け所信表明、記者発表を行う (H26. 11. 28)

H26. 12 若者条例、若者議会条例を市議会で議決 (H27. 4 施行)

若者政策ワーキングでたたき台を作り、事務局で条文化

若者条例 - 思いをどう引き継いでいくのか -

若者議会 - 市長の付属機関で諮問、答申を行う - 16~29歳の若者20名

H27. 3 若者政策キックオフシンポジウム

若者総合政策及び若者議会についてのプレゼンテーション

H27. 4 第1期若者議会議員公募

任期 5月から翌年3月まで

(この間、全体会議15回、分委会60回、意見交換会10回行った)

議員構成 高校生10名、大学生4名、専門学校生1名、社会人5名

メンター 市民5名、職員12名

H27. 5 所信表明 (全議員)

議長選出 (立候補者3名)

H27. 6 チーム編成

そもそもチーム分けするのか、しないのかから議論

市内PR、市外PR、防災、世代間交流、医療、図書館の6チーム

H27. 7 政策検討

一日強化合宿などを行い、政策のいろはから勉強

H27. 8 中間発表

市議会議場にてプレゼンテーション

H27. 9 政策の再検討

H27. 10 地域意見交換会に出席

H27. 11 市長に答申

市内PR - 情報共有スペース設立事業 2880千円

市外PR - 若者議会特化型PR事業 1500千円

防災 - 若者防災意識向上事業 249千円

世代間交流 - お喋りチケット事業 426千円

図書館 - ふるさと情報館リノベーション事業 4169千円

医療 - いきいき健康づくり事業 753千円

H28. 3 市議会にて承認

次期若者議会のあり方を市長に答申

第2期若者議会議員の公募準備

【若者議会の可能性】

- 底知れない若者パワー
行政では思いもよらない斬新なアイデアを持っている
まちの未来を真剣に考えている — 若者は重要な資源である
- 若者たちの成長の場に
立ち振る舞い、話し方、考え方に変化 — 若者の品質が高まる
- 波及効果
他の若者へ、地域へ、市民の意識に変化 — 若者を応援していこう

【今後の課題】

- 行政側の調整
若者の提言を受け入れる際、担当課がまたがる場合があり課と課の内部調整が重要
提言を実現することで、士気が上がり次ぎへの原動力につなげたい
- 予算の展開
ソフト事業は継続的に予算を使うことになる
総額が同じなら新規事業の予算が圧縮される
- 意識の継続
次期若者議会議員に今期培った意識をどのようにつなげていくか

【質疑応答】

- Q. チームで出された課題は市としても課題であるとの共通認識はあるか
A. メンターとは別に担当課の職員がチームに入り、課題を共有している
- Q. 議員以外の若者とのつながりは
A. アンケートを実施し若者の意見を取り入れている
無作為の500人に議員公募の案内を送っている
- Q. 防災において大人が行っていることとの連携は
A. ボランティアの会長と話す機会を持っている
まだこれからだが自分たちは新しい企画を発案していきたい
- Q. 中学生議会、女性議会とのつながりは
A. 中学生議会には次ぎのステップとして考えてもらうようPR活動をしている
女性議会とのつながりは今後の課題ととらえている
- Q. 条例をつくる際のパブコメや若者の声を聞く期間は

A. パブコメの期間は1ヶ月、若者からの意見は若者政策ワーキングを中心に約半年

Q. キックオフシンポジウムの内容、企画はどのように決めたのか

A. キックオフ大臣を中心に若者がすべて考え企画した
イベントには全員参加、来場者の約半数が若者

Q. 周りの高校生はどのように感じているか

A. 部活等を休む際、活動内容を話すがあまり反応が良くない
経験談や考えた政策の実現性を話すと興味をもってもらえる

Q. 活動を通して楽しかったこと、良かったことは

A. 意見交換会で大人と話して自分たちが期待されている、支えられていると思えた

Q. 若者議会議員を卒業した後はどのように関わっていききたいか

A. 市が行う他のイベントにも積極的に関わっていききたい
体験談など多くの人に声をかけていきたい

Q. 若者議会議員は市内の学校に通っているのか

A. 市内に大学はなく、大学生は全員市外に通っている
高校生は10人中6人が市内の学校に通っている

Q. 広域への対応について、他の自治体へのPRは

A. 今後、東三河全域への波及効果を考えていく
市長が首長会でPRしている他、公募チラシは飯田線の中吊りでも行っている

【考察】

若者の目線を市政へ向ける取り組みとして大変勉強になった。市長がマニフェストに掲げた政策であることもあり、行政側が積極的に取り組んでいることがよくわかった。若者パワーもあって準備期間1年で若者議会が始り、初年度若者議会は約半年で6つの事業を市長に答申しているスピード感には驚いた。

そこには行政と若者の課題取り組みに関わる共通認識と、若者に主体性をもって活動してもらおう仕組みがあり、そこが一番のポイントになるだろうと考える。

可児市では新城市とは違い、市議会と若者が中心となって条例をつくらうとしているため、若者のアイデアに対し、予算等の面で実効性、具体性に欠ける懸念が出てくると若者のやる気や、達成感を阻害してしまう恐れがある。そうならないような独自の仕組み慎重に考えていく必要があると思った。

新城市の取り組み自体まだ新しく、まだまだ不明瞭で効果の程もこれからのところもあるが、未来を担っていく若者が行政に関わっていくことは非常に大事であるし、若者の

意識向上のみならず、市民の市政に関する関心度への影響や、こういった取り組みが若者の定住化促進につながる可能性も考えると、可児市も今後、積極的に取り組むべき課題であろうと思う。

新城市の場合、若者の定義を 29 歳までとしているが、可児市の場合はどうするのか、広域での関わり、政策提言を反映させる仕組み、予算や費用など、様々な問題があるがひとつひとつ具体化していき、可児市ならではの「市議会と若者のつながるかたち」ができればいいと思った。

また若者の情報発信力、イベント企画力には目をみはるものがあり、今回の件に留まらず、市政のいろいろな場面で活躍してもらえよう、あわせて考えていきたい。